

平成 30 年 11 月 23 日（祝）

# 飯盛城跡現地説明会資料

調査場所：虎口・千畳敷曲輪

大東市教育委員会

## 1 はじめに

飯盛城跡は大東市・四條畷市にまたがる標高約 314m の飯盛山に築かれた戦国時代の山城です。城域は東西約 400 m、南北約 700m を測り、東は権現川、西は急峻な斜面の自然地形によって守られています。

大東市と四條畷市では、大阪府内最大級の山城である飯盛城跡の国史跡指定に向けて、平成 28 年度から飯盛城跡の規模や構造を明らかにするために測量調査（航空レーザー測量）、分布調査、発掘調査などを実施してきました。

大東市では、今回、調査最終年にあたって、「千畳敷曲輪」と城の出入口である「虎口」の発掘調査と石垣の測量調査を実施しました。



## 2 調査の概要

### 【「虎口」の発掘調査・石垣の測量調査】

城の出入口である虎口の構造を明らかにするために発掘調査と石垣の測量調査を実施しました。調査の結果、虎口の東側に築かれた石垣が曲輪の斜面を取り巻いていること、南丸の裾に築かれた西側の石垣は見えていた築石の下にもう一段、石が積まれていることなどが明らかになりました。

### 【「千畳敷曲輪」の発掘調査】

NHKFM 送信所から一段下の曲輪の発掘調査では、西側の土塁は岩盤を削り出して築かれており（第1トレンチ）、削り出した土を南側の谷に盛土し、曲輪の平坦面を広げています。

曲輪の造成にあたって、大規模な土木工事が行われたことがわかりました。



岩盤を削りだして作った土塁（第1トレンチ）

## 【飯盛城の略年表】

1530 （享禄3）頃	細川晴元被官・木沢長政、飯盛城を居城とする。
1531・32 （享禄4・5）	畠山義宣、木沢長政の飯盛城を攻撃。
1536 （天文5）	木沢長政、飯盛城から信貴山城（奈良県平群町）にうつる。
1537 （天文6）	木沢長政、畠山在氏を河内守護に擁立。飯盛城は守護所となる。
1542 （天文11）	木沢長政、遊佐・三好・本願寺と戦い、太平寺（柏原市）で敗死。ついで両軍が飯盛山麓で衝突。
1543 （天文12）	木沢の残党、飯盛城から大和方面に退く。
1551 （天文20）	安見宗房、河内守護代となり飯盛城に入城。
1560 （永禄3）	三好長慶、高屋城（羽曳野市）の畠山高政を破り、安見宗房を追放して河内を占領。芥川山城（高槻市）から飯盛城に入る。
1561 （永禄4）	三好長慶、飯盛城で連歌会（飯盛千句）を催す。
1562 （永禄5）	三好長慶、飯盛城で安見宗房や根来寺衆を迎え撃つ。
1564 （永禄7）	宣教師ヴィレラやロレンゾ、飯盛城で三好長慶の傘下73名を洗礼。
1567 （永禄10）	三好長慶、飯盛城で死去。養子の義継が家督を継ぐ。
1568 （永禄11）	飯盛城、三好義継に対抗する三好人衆の手にわたる。
1569 （永禄12）	三好義継、將軍足利義昭から飯盛城を安堵される。
	三好義継、飯盛城から若江城（東大阪）にうつる。

## 【知っておきたい城の用語解説】

### 【虎口（こぐち）】

曲輪の出入り口。城兵の出入りのために土塁や堀が途切れており、弱点を補うため、守りやすく、攻め出しやすいように工夫されました。戦国時代の終わりに発達した虎口の設計は、「柵形虎口」などの複雑な様式を数多くみだしました。

### 【曲輪（くるわ）】

山城の中で、山頂や山腹などを削って平らにした場所。周辺は急な斜面や土塁、堀で守られていることが多く、兵士が駐在したり、建物が建っていた可能性の高い場所です。近世の城では「本丸」「二の丸」「三の丸」などと呼ばれていましたが、現在は、本丸のように城の中心となる曲輪のことを「主郭」、それ以外は「曲輪1」「曲輪2」のように表記するのが一般的です。

### 【切岸（きりぎし）】

曲輪のまわりや、防衛の強化が必要な場所の斜面を削り、人工的に作った急斜面。切り立った崖のようにして敵が登ってくるのを防ぎます。

### 【土塁（どるい）】

曲輪を囲んで積み上げた土壁。雨が降ると土が崩れるため、積み石で土止めをすることもあります。

### 【堀（ほり）】

敵の侵入を防ぐために城の周りに掘られた溝。水が張られた堀を「水堀」、張られていない堀を「空堀」と呼び、近世の平城には水堀が作られましたが、中世では空堀が一般的です。山の周囲に流れる川を「天然の堀」として利用する例もあります。

### 【堀切（ほりきり）】

山の尾根に作られた堀。尾根は最も山を登りやすいところなので、敵の侵攻を妨ぐために、尾根を断ち切るような形で掘られる山城の基本的な堀です。ふつうは、水が張られていない「空堀」でした。

### 【土橋（どばし）】

堀切を渡るために架けられた土の橋。木で出来た橋を架ける場合もありました。堀切で遮断している状態は戦うときには有効ですが、普段は人が通行するため橋があるほうが便利だったことがうかがえます。敵が攻めてきたときには、木橋を落として防御しました。

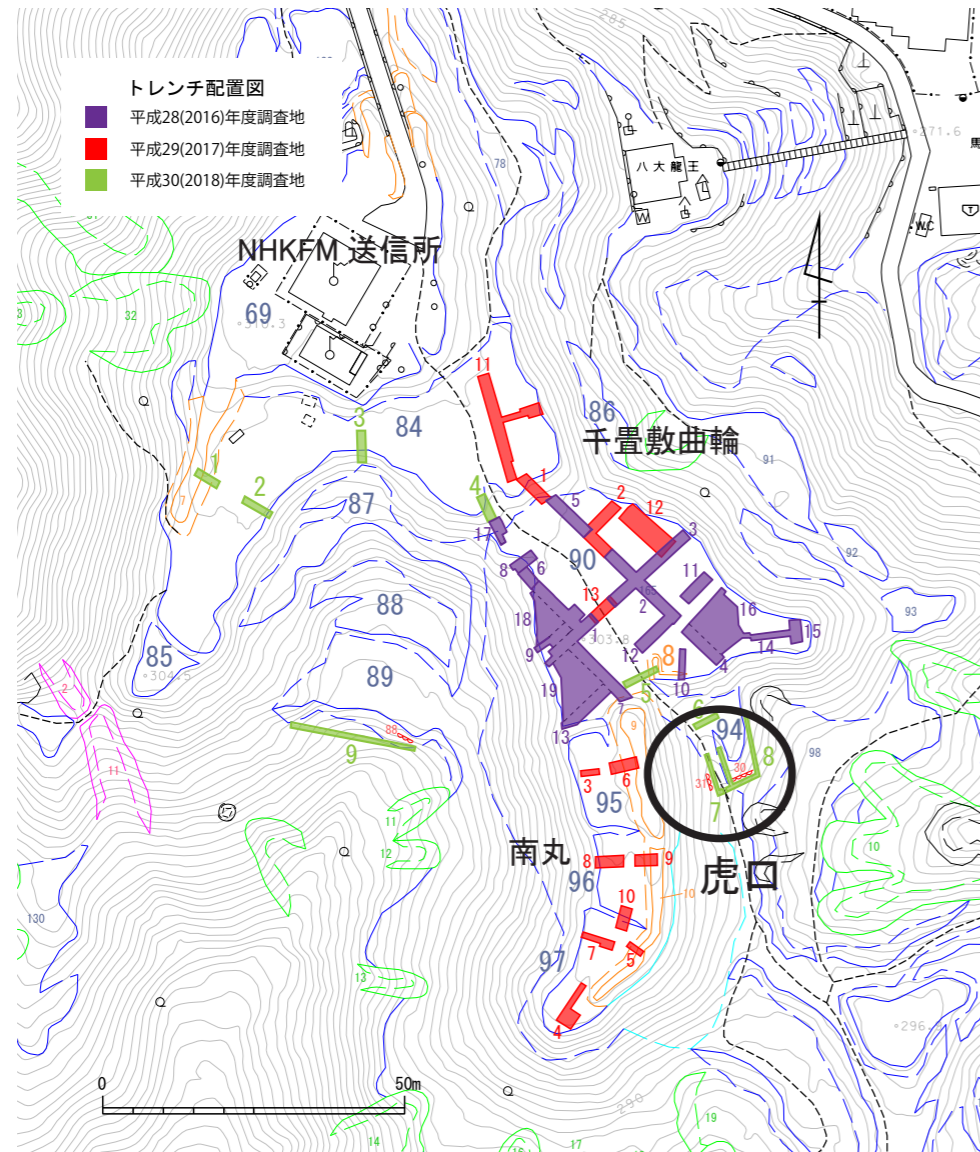
### 【豎堀（たてぼり）】

尾根伝いに攻める以外に、山の斜面を回り込んで攻め登る敵を防ぐために、斜面に掘られた堀のこと。もとは堀切を延長するように斜面に伸ばしたのから始まり、やがて斜面を横に移動しにくくするために単独でも作られるようになりました。斜面に3本以上の豎堀を並べて一面を覆ったものは畝状空堀（群）と呼ばれます。

### 【横堀（よこぼり）】

曲輪に沿った堀のこと。平地の城館では早くから建物の周囲に堀を設けていましたが、もともと堅固な山に作られていた山城では、曲輪の周りに堀を掘ることはあまりなく、横堀は戦国時代になって登場しました。

\*高槻市立しろあと歴史館 2014 高槻市立しろあと歴史館平成 26 年秋季特別展 戦国 大阪の城 - 動乱の時代と天下統一図録『大阪のお城がわかる本』より



「千畳敷曲輪」から虎口東側の曲輪を望む。  
手前左が千畳敷に築かれた土塁（第5トレンチ）、奥に見える平坦面が虎口東側の曲輪（第6トレンチ）。



「南丸」の斜面裾（左側）と東側の曲輪の斜面（右側）に石垣を築いています。  
「千畳敷曲輪」へ続く通路は西に少しカーブしており、虎口から曲輪の入口を直接見通すことができないように工夫されています。両側の曲輪から城内に侵入した敵を攻撃できる構造であったと推定されます。



南丸の斜面裾に築かれた石垣（第7トレンチ）。



虎口東側の曲輪斜面を取り巻く石垣（第8トレンチ）。